



プレスリリース

平成 23 年 3 月 30 日

財団法人リモート・センシング技術センター

「東北地方太平洋沖地震」における被災地域の衛星画像地図の無償提供について

財団法人リモート・センシング技術センター（RESTEC）と株式会社エヌ・ティ・ティ・データ（NTT データ）は共同で、東北地方太平洋沖地震における被害地域の復興支援のため、岩手県、宮城県、福島県の沿岸地域の衛星画像地図を整備し、平成 23 年 3 月 31 日より WEB サイト等を通じた無償提供を行います。

衛星画像地図は、日本の陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)およびタイの地球観測衛星「テオス」(THEOS)により撮影された地震前後の衛星画像を使用して作成いたしました。

衛星画像と道路や公共施設等の地図情報を重ね合わせた座標（緯度、経度）情報を含む PDF 形式の地図データです。

特徴：①地震前後の市街地の詳細と地表状態の判別が可能です。

② Acrobat Reader 9(推奨ソフトウェア)上で文字、図形の書き込みや座標、距離、面積の計測が可能です。

利用例：

・出力した複数の地図を折り重ね、簡易広域地図として概要を把握できます。

・津波の影響等による移動構築物の距離計測、被災地域の面積計測等が可能です。

上記のとおり被災状況把握、復興計画策定および地域の情報共有等に利用いただけます。

◆ 提供 WEB サイト

<http://alosemergency.restec.or.jp/>

【お問い合わせ】

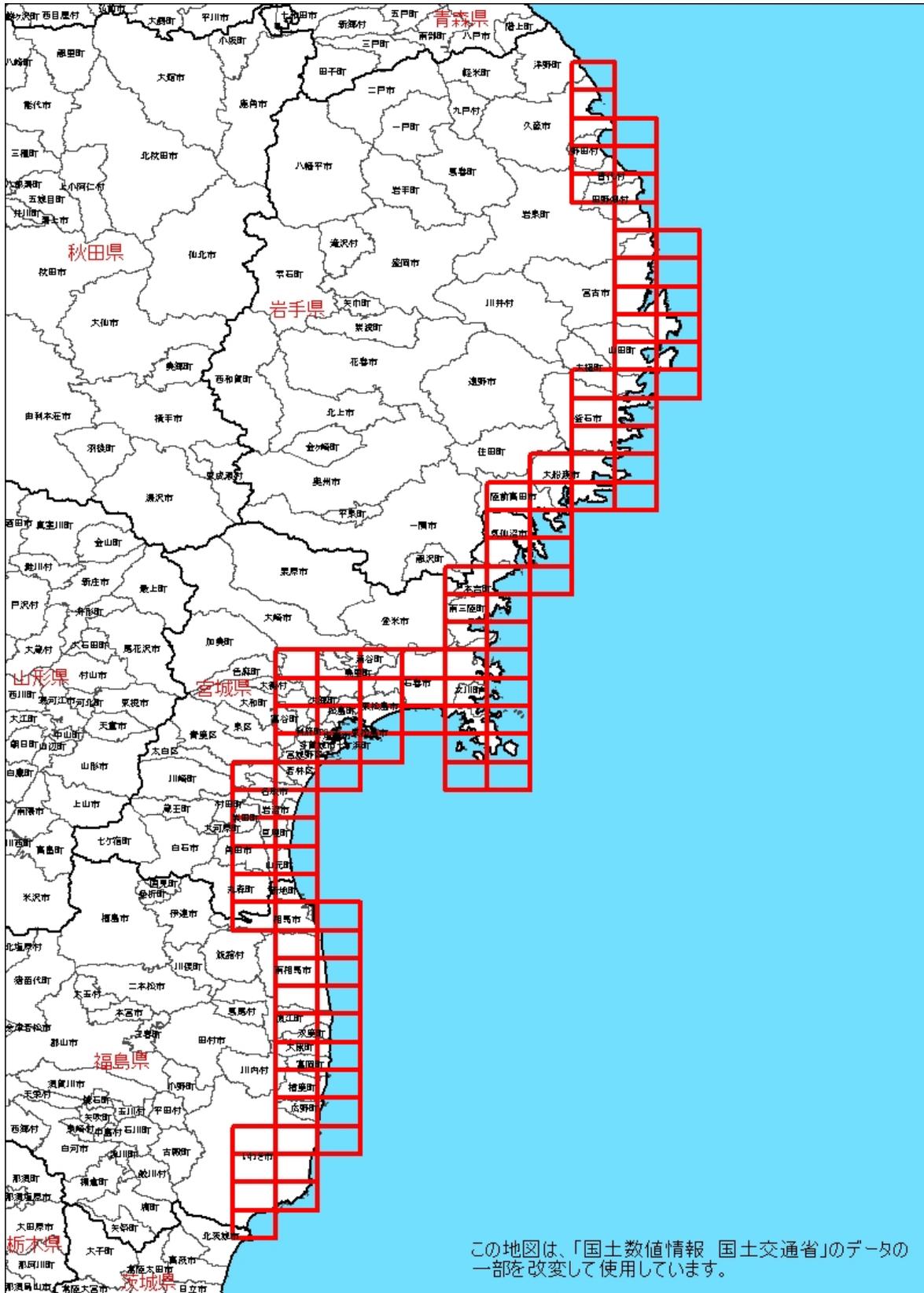
■ 財団法人リモート・センシング技術センター
利用推進部データ普及課

担当：石館(いしだて)、稲葉

TEL:03-5561-9151 FAX:03-5574-8515

E-mail:data@restec.or.jp

◆ 整備範囲



<別紙1>用語説明

■陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)について

2006年1月24日に宇宙航空研究開発機構(JAXA)が打ち上げた日本の地球観測衛星。「だいち」は衛星の愛称で、ALOSとはAdvanced Land Observing Satellite(陸域観測技術衛星)の略である。地表を2.5mの分解能で観測し標高など高さ情報を取得する「パンクロマチック立体視センサ(PRISM)」、10mの分解能でカラー画像を取得する「高性能可視近赤外放射計2型(AVNIR-2)」、昼夜・天候によらず陸地の観測が可能な「フェーズドアレイ方式Lバンド合成開口レーダ(PALSAR)」の3つのセンサを搭載し、詳しく陸地の状態を観測する機能を持つ。

(分解能とは)

空間分解能。どれだけ細かく対象を観測できるかを表す。分解能2.5mで観測すると地表の物体を2.5mまで識別できる。



(画像左)分解能 10m (画像右)分解能 2.5m

■地球観測衛星「THEOS」について

2008年10月1日にタイ地理情報・宇宙技術開発機関(GISTDA)が打ち上げた、タイ国初の地球観測衛星。THEOSとはTHailand Earth Observation Satelliteの略である。地表を2mの分解能で白黒画像を取得する「パンクロマチック」と、15mの分解能でカラー画像を取得する「マルチスペクトラル」の2つのセンサを搭載している。



© NTT DATA, RESTEC / Included©JAXA

震災後の衛星画像地図(宮城県石巻市)



©Geoscience, NTT DATA, RESTEC / Included©JAXA

震災前の衛星画像地図(宮城県石巻市)



© NTT DATA, RESTEC / Included©GISTDA

震災後の衛星画像地図(福島県浪江町)



©Geoscience, NTT DATA, RESTEC / Included©JAXA

震災前の衛星画像地図(福島県浪江町)